

旧尾藤家住宅

旧尾藤家住宅は 1863 年から 1865 年の間に建てられ、1980 年になるまで 4 世代にわたり一族が住んでいました。武士の末裔である尾藤家は、18 世紀の変わり目から加悦地方で絹の卸売りに携わった裕福な商人の一族だったのです。そして何年にもわたって、尾藤家は醤油の販売、国内の輸送、保険、地元の鉄道、そして銀行業に関わるようになっていました。そして 1928 年、第 11 代尾藤庄蔵は加悦町長に就任し、旧加悦町役場庁舎の建設の監督を行いました。

旧尾藤家住宅の床面積は約 1,000 平方メートルで、これは加悦地方で最大の住居です。建設中は、近くの建造物から材料を再利用し、兵庫県北部の住宅を移築したものです。また敷地の中には、店先、倉庫、接待用の部屋、庭、居間などがあります。ちりめん街道が栄えていた頃は、さぞかし商売で賑わっていたことでしょう。前室はお得意様を迎えるために使用され、織工と使用人たちは、旧尾藤家住宅の部屋で働いていたようです。

この旧尾藤家住宅は、ほぼ元の状態に近い状態で保存されています。厚い耐火扉を持つ大きな倉庫があり、庭に面した縁側の廊下があり、また家中の引き戸には装飾用の「引き手」が付いています。そして 20 世紀初頭に追加された洋室には、当時の木製家具がそのまま残っています。また尾藤家の家宝や衣料品などは、一年中展示されています。